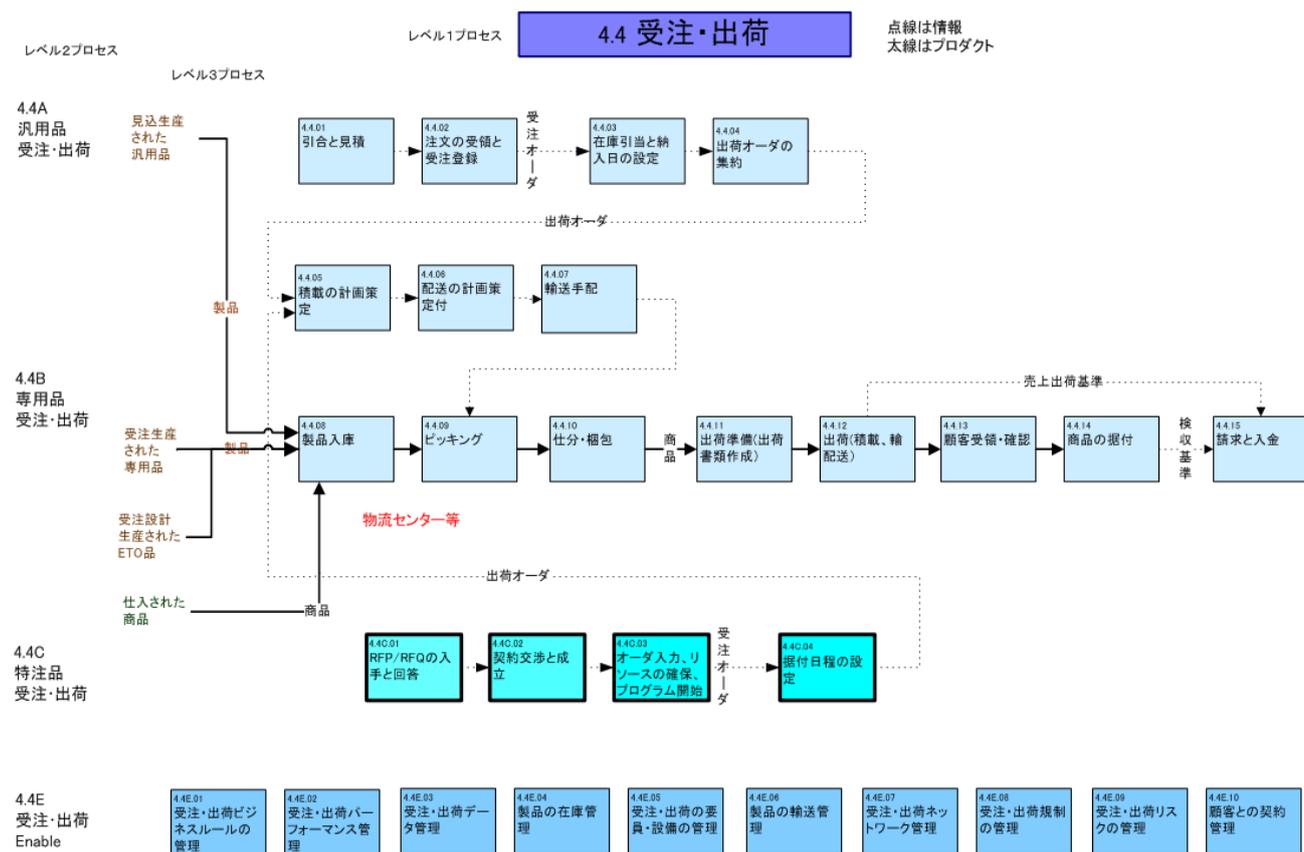


## 40-50-03 : 4.4 サプライチェーン\_受注・出荷プロセス図(レベル3)解説



サプライチェーンの受注・出荷業務に関して、汎用品の場合、専用品の場合、特注品の場合、そして受注・出荷Enableという4つのレベル2プロセスについてのレベル3で描いたプロセス図。レベル3プロセスの詳細は、s受注出荷のプロセス詳細記述書(レベル3)を参照のこと。

#### 4.4A 汎用品受注・出荷

汎用品は見込生産して在庫として保持しているため、納入リードタイムを短くできます。4.4.02注文受領、4.4.03在庫引当の後、4.4.04出荷オーダー集約によって、積載・配送計画を作成し、倉庫等から4.4.09ピッキングし、4.4.12顧客に輸配送し、最後は4.4.15請求を行います。倉庫に在庫が不足した場合は、工場等から4.4.08製品入庫します。

#### 4.4B 専用品受注・生産

専用品は在庫せずに注文によって受注生産するため、製造リードタイムの分だけ納入リードタイムが長くなりますが、受注・出荷のプロセス自体は汎用品の4.4.01～4.4.15と同じです。

#### 4.4C 特注品(ETO品)受注・出荷

特注品(ETO品)の場合は、4.4C.01がRFPによる引合への提案、4.4C.02が契約交渉、4.4C.03が受注、4.4C.04が据付計画までというように異なります。これ以降は汎用品の場合と同じです。

#### sED 受注・出荷Enable

受注・出荷の実行プロセスを管理・支援するための10個のプロセスがあります⇒C40-50-80

受注・出荷Enableは、汎用品/専用品/特注品の枠を超えた共通の機能のプロセスです。

汎用品と専用品とは見込生産か受注生産かが異なるだけで、受注・出荷プロセスは同じです。ETO品では、最初に製品設計を行って、製造設計を確定し生産し、そして据付日程計画に基づいてからは汎用品の受注・出荷プロセスとほぼ同じことに注意して下さい。